

添付資料3:

■参考資料: 過去応募者データ抜粋

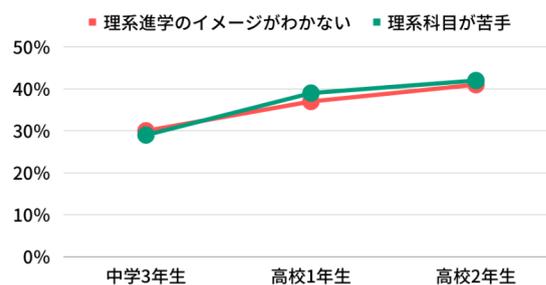
昨年度(2022年度)の奨学金の学年別、応募年度別の進学へのハードルを分析した結果、どの学年でも経済的負担が最も多く、次に理系科目が苦手・理系進学イメージが湧かないことがハードルとなっていました。特に、中3、高1、高2と学年が上がるにつれて「理系進学イメージが湧かない」、「理系科目が苦手」の割合が上がっていくことから、学校等教育機関の現場における、特に女子生徒に対する理系進学に関連した支援内容を手厚くする必要があることが推測されます。



2022年度奨学金応募者
(中3: 230人、高1: 941人、高2: 908人)

回答項目※	中3	高1	高2	中3	高1	高2
経済的負担	145	639	651	63%	68%	72%
理系進学イメージが湧かない	69	347	373	30%	37%	41%
理系科目が苦手	67	366	383	29%	39%	42%
周囲の理解がない	35	140	199	15%	15%	22%

学年が上がると女子生徒のSTEM(理系)への苦手意識が高まり、イメージが湧かなくなる→学校におけるさらなる支援が求められている。



2022年度財団の奨学金応募者の応募データから作成
対象者: 中3~高2 (中3: 230人、高1: 941人、高2: 908人)

※表の見方

「経済的負担」: 該当なし以外に回答したサンプル数

「理系進学イメージが湧かない」: 「親や周囲の身近な大人が理系学部出身ではなく、大学の理系学部への進学イメージがわきづらい」及び「親や周囲の身近な大人が大学に通っていたことがなく、大学進学イメージがわきづらい」に回答したサンプル数

「理系科目が苦手」: 「STEM(理系)分野に興味はあるが、数学が苦手である」及び「親や周囲の身近な大人が大学に通っていたことがなく、大学進学イメージがわきづらい」のサンプル数

「周囲の理解がない」: 「親や先生等周囲の大人から、希望する進路について、反対があったり努力を否定されていると感じるようなことがあった」、「親や先生等周囲の大人に、女性のSTEM(理系)進学について「就職イメージが湧かない」「就職に不安がある」と言われたことがあった」「親や先生等周囲の大人に、「女性は文系がよいのではないか」と言われたことがあった」のサンプル数